

3. 委員からの意見

項 目	湯川委員	土屋委員	竹村委員
1. 地域需要動向調査に関する事		経営指導の内容別の集計をとって今後の活動資料としたらどうか。特に多いものはQ&A形式にまとめるなど工夫されたい。	青年部会員へのITツール(AT)の調査回数だけ目標に達しなかった。当職も経験があるがシステムは使い勝手がまいちで、何度も入力する気が失せるため、青年部会員だけの原因とするのは可哀そうではあるが…。空き店舗は総じて改善傾向にあったが、コロナ禍がどう影響するか分析されたい。
2. 経営状況の分析に関する事		経営指導員の巡回訪問・窓口相談も良く行われていると思われる。フォローアップが大切なので今後も頑張ってもらいたい。	廃止した事業以外は、総じて目標をクリアしている。専門家派遣が特定企業、特定コンサルタントに集中している点は改善の余地がある(手元にあったH30資料で「赤池某社」は5回派遣を受けているが、年度変わったR1年度も3回受診しており、受診の成果と受診機会の公平性に疑問が残る)。
3. 事業計画策定支援に関する事		経営者の事業計画を具体化する意味で策定には、経営指導員や専門家が頼られる項目である。今後も相談機会を多く取って欲しい。新たに新型コロナウイルスのBCPも必要。ひな形提供もあり。	経営革新承認件数は、経営指導員10名以上(11件)と目標以下であるが評価できる。ものづくり補助金に絡めた「加点項目のための認証申請」に注力されたい。女性社長による事業承継支援のチームとしてサンディオスの津賀社長も在籍するAnegoなども活用されたい。
4. 事業計画策定後の実施支援に関する事		フォローアップが大切。やっばい内に新たな悩み等が生じるので、経験者の体験談を聞くなどの取組は良いと思う。	フォローアップ延べ回数が目標に達しなかったのは、キャッシュレス普及の対策を先に行ったためと伺い、それは評価できる。補助金受給後には各種報告もさることながら、当該新事業を成功させることが一番大事であり、特に新規事業先への支援に注力されたい。
5. 需要動向調査に関する事		情報提供としての役割を担っていると思う。	中止された事業以外はおおむね目標達成された。時期柄、WEBセミナーによる閲覧で大きく参加者を伸ばしたことは評価できる。今後、アンケート収集方法を含めてWEB等による方法が増えると思われるので、準備と周知を徹底されたい。
6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関する事		HPの活用など、これからの時代はICTの活用が重要なので、この分野の情報提供・研修に力を入れるべき。	例年、この部分は提携する機関による支援が中心となり、そのため思う様な成果に繋がらない年もある。民間の支援サイト等(特に特化したサイト)が参入しており競争もあるため、更にはない様に磨きを掛けられたい。
7. 地域経済の活性化に資する取組		沼津ブランドに対するお客様の声(反応)をHP等で募り、事業者にフィードバックするなど、ただ認定しただけで終わらないようにしたらと思う。沼津駅の高架化等の中心市街地のイメージアップの努力をしてください。	承認された地域ブランド品について、TV番組に取り上げられている物を見る機会が増えたと思う。申請(承認)される商品の内容(デキ)が向上している結果として評価したい。
8. 経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取組		経営指導員の能力向上のため研修を続けて行って欲しい。	他支援機関とは、予定された情報交換などに取り組んでいる。職員の資質向上については、先出の専門家派遣などに行き得られる知識もあることから、こうした二次的な研修(ジョブトレ)も実施されると一定の成果として評価できるであろう。
9. 第4期中期行動計画に関する事		新型コロナウイルスの感染拡大が終息しておらず、人が集まる会合・イベント等が自粛される中、ICTの利活用を推進していくことが必要である。	作成時の国内状況は、コロナ禍における現状と様変わりしてしまった。しかしこうした行動計画の評価により、軌道修正を図りながら現実を見据える必要は、これからの成果も細かく分析され、目標達成におけるモチベーションになるものと評価する。